



JASH 名誉会長挨拶

聖心会日本管区管区長

シスター 長野 興子

たまたまNHKの夜のニュースをつけたら、見事な影絵が映し出されていた。淡い黄色と橙色の光がまぶしく中央から輝き、周りの切り取られた風景を照らす、得も言われぬ幻想の世界である。微妙な色調とそれによってくつきりと浮かび上がる輪郭の影と光のコントラストにあらためて感動した。しかしこの番組は影絵の紹介ではなく、このような作品を描き続けている八八歳になる世界的影絵作家、藤城清治その人についてであった。

次に映し出されたのは、彼が東日本大震災の出来事に非常に心を動かされ、ぜひその現地を訪ね、自分の目に焼き付けたいと画板を抱えて出かけ、鉄骨のむき出しになった南三陸の防災対策庁舎や、海に面して広がる荒涼とした漁村や田畑を高台から眺めている姿であった。そしてもっと現実を知りたいと放射能汚染で立ち入りが禁止されている地域にまで足を運び、マスクと防護服に身を固めて、三時間の制限時間ぎりぎりまで、遠くに福島第一原発の鉄塔を見ながらスケッチを続けている姿であった。

わたしはこの方の訥々と話される言葉に吸い込まれた。「これまで自分メルヘン的な作風で、美しい世界を描いてきた。しかし被災地の現実に接したとき、これまで自分が描いていた世界がなんだったのか。こ

の世界は目に見えないものの奥に、いろいろなものを秘めている。福島らしい畑、小川の流れ、今までと変わらぬ川を渡る鮭、生い茂る草木や花々、しかしこれらの現象の奥に、目に見えない放射能がこの自然界に広がっている。これこそが現実であるのに、ただ見える世界だけにとらわれていた自分は何だったのか」と。彼が被災地を訪問した後に描かれた作品は、これまでのような夢のようなロマンティックなものではなく、鉄塔が傾き、木々は折れ、倒壊した家屋は重なり、川の流れる毒を含んだ水に変わり、それを避けるように魚が泳ぐ、その迫力は今までの作品と同じであるが、何かが変わり始めた。

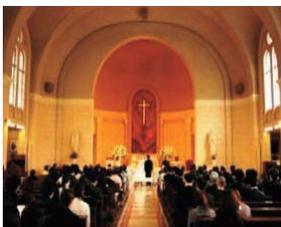
ニュースの間の短時間の放映でもっと彼の言葉を聞きたいと思ったが終わってしまった。見終わった後で、私の心に強く残ったことは、八八歳までの長い人生、七十年以上も影絵制作に打ち込み、その作風は最高の芸術とまで評価され、見事な完成の域に達した作家が、東日本大震災の現実には衝撃を受け、それによって新しく目が開かれ、「自分はこれまで何をみてきたのか」と自問自答している姿である。

人は何歳になっても変わり続け、自分が今見ている世界、思い込んでいる世界が決して最終的なものではないことを、この方は教えてくださったと思った。そしてどんなに高齢であって、真実なものを求めて、変わり続ける人の気高さを感じさせていた。 (宮13)

お知らせ

JASH 会員は聖心女子大学聖堂で結婚式を挙げることができます。

ご希望の方は下記へお問い合わせください。



宮代会 結婚式係  
直通 03-3407-7331  
毎週 月/木  
11:00~14:00  
(8月を除く)

JASH Website

JASH に関する情報をいち早く掲載しています。ぜひご覧ください。



URL: <http://www.jash316.com/>

JASH役員挨拶

会長 堀田 公子

JASHの二〇一二年度は、九人のうち四人の役員が交代して、スタートしました。残りの四人と私自身は、四年任期の後半に入ったことになりました。こうして生まれた新しい役員会も、明るい雰囲気の中で気持ちよく話しあいや仕事をしています。考えるべきことや仕事の量は大変多いのですが、引き続き素晴らしい仲間

に恵まれたことを、本当にありがたいことと感謝しています。さて本年度の大きな目標は、年度末のAMASC会長来日でした。そのために早い時期にJASHボランティアの中から歓迎チームを結成し、企画、実行を助けていただきました。一方、ビジネス面でも、より多くのJASH日会員に問題意識を共有していただくため、十一月に「JASH・AMASCを考える会」を開催しました。AMASC会長来日関連の行事に向けて、同窓会の方々の初め、常設三委員会とスタディグループのメンバーがそれぞれの分野で大活躍をして下さいました。おかげさまで無事すべての行事を終了しました。八ページに報告を掲載しています。

二〇一四年はJASH設立五十周年の記念すべき年です。JASHの健全な発展のため、今後とも管区長様、シスター田中玲子を初めJASH理事会メンバー、そして全JASH会員の皆様のご指導とご協力を心よりお願いいたします。

海外における「日本聖心同窓会 (JASH) 会員の集い」発足

数多くの日本の聖心同窓生が世界各地に在住し、いくつかの地域に聖心同窓生の集まりがあります。現在、日本国内の八同窓会のうち、会則に規定して「支部」を持つのは、聖心女子大学の同窓会、宮代会のみです。また、支部の申請をせずに地域内で集まりを開いているグループもあり、その窓口も、これまで宮代会が一手に引き受けて下さっていました。そうしたグループには日本の聖心卒業生が所属同窓会に関係なく参加し、親しく交流しています。

この実情に照らし、二〇一二年七月、JASHと宮代会は、宮代会支部として登録していない、海外における聖心同窓生の集まりを、JASHの管轄に移行することで合意しました。これにより、該当するグループは、改めて「日本聖心同窓会 (JASH) 会員の集い」として発足しました。

二〇一二年九月一日より、JASHは、宮代会より引き継いだ宮代会支部でない各地域の連絡先を、責任を持って管理し、JASH日会員からの要望があった場合にのみ個別に伝達しています。

現在の登録地域は七つ。それらの集いについて、留学や海外転勤のために該当地域で生活を始める同窓生から、JASHウェブサイトのお問い合わせを通じて、頻繁に問い合わせをいただいています。こうした

て世界中の同窓生の輪を広げることができるとは、統合同窓会であるJASHにとつて大きな喜びです。今後ウエブサイトを始め、「JASH日」や各同窓会の会報などを通じて、「海外におけるJASH会員の集い」の存在を広くお知らせし、世界各地に在住する聖心同窓生の親睦、助け合いにますます役立てていただけるよう努めて参ります。これから「JASH日会員の集い」のある地域で生活をなさる方で、現地の日本の聖心同窓生と連絡をお取りになりたい場合や、新しくできた地域レベルでの同窓生のグループがありましたら、是非JASHへお知らせ下さい。

皆さまのご協力をお願いいたします。

< 海外「JASH 会員の集い」の所在地 >

アメリカ合衆国	ニューヨーク
	ハワイ
	サンフランシスコ／ ベイエリア
英国	
フランス	パリ
中華人民共和国	香港
オーストラリア	シドニー



AMASCブローチ  
2014年JASH設立50周年記念

世界を包むみこころを象徴するオープンハート。  
銀製、ブローチとペンダントの  
ツーウェイタイプです。

製作 和光  
頒布価格 8,000円  
送料 全国一律500円 (郵便局レターパック  
プラスでお届けいたします。)

お問い合わせ、申し込みはJASHウェブサイトまたは  
ファックスで。  
お届けに時間がかかることをお許しください。

JASHボランティア募集

JASHボランティア制度への登録者は、おかげさまで70名を超えました。古切手の処理を母娘で楽しんでいる方、ボランティアを通じて親しくなった方、海外から登録くださった方もいらっしゃいます。「JASHの日」も、大勢のボランティアに支えられて開催されます。

お手伝いいただく内容:古切手の処理、パソコン入力、簡単な事務作業、「JASHの日」などイベントの手伝い、運転、翻訳など。

JASHの活動をお手伝いくださるボランティアを、常時募集しています。

申し込みは、JASHウェブサイト「お問い合わせ」より

# 委員会報告

ホスピタリティー委員会

会長 阿部 裕子

私どもはAMASCホスピタリティーネットワークの一環として活動しています。登録いただいているボランティアと、機会ごとにお願ひするお手伝いの方々の協力を得て、海外からの聖心関係者来日に際して、便宜を図っています。またJASH会員の海外渡航に際しても、訪問国のAMASC会員との交流が円滑に進むよう協力しています。

その他おこなった活動は、毎年三月の「JASHの日」における昼食会の用意です。立食形式で行われる会は、決して豪勢ではありませんが、出席者に少しでも心地よい時間を過ごして頂ければと、メニュー、会場のお花などに心を配っています。会場各所で、お料理や飲み物を手に懐かしい面々と楽しそうに談笑し、旧交を温める皆様の姿を拝見するのが、委員にとつては大変嬉しく励みになります。デザートのカキの数々は、JASH会員の皆様の温かい心がこもったお手製です。これこそが聖心のホスピタリティーと、快くお手を貸してくださる皆様に深く感謝申し上げます。次第です。

今後皆様のご指導、ご協力のものと活動してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。(宮32)

## AMASC東京大会記念基金委員会

委員長 渡辺 寿恵子

毎年の恒例行事、「ヤングアラムネの集い」を、二〇一二年六月二三日に開催しました。ヤングからの意見を取り入れて、初めてフェイスブックで参加を募りました。参加者は十三名で、期待したほどにはニュースが行き渡らなかつたのは残念でした。この集いの中心は二〇一四年に予定されていたAMASCモントリオール大会の紹介でしたので、元カナダ大使夫人の沼田恭子さん(み55、三英25)をお招きしました。モントリオール及びカナダ全般について、またカナダ人とアメリカ人の気質の違いなど、ご自分の経験をふまえて楽しくお話しくださり、ヤングからも活発な質問が出て、実り多い時間を過ごすことができました。

その後フェイスブックも動き始め、少人数ながらスタディグループが形成されました。十一月三日には読書会が呼びかけられ、AMASC大会のテーマ「心を一つにして耳を傾けよう」について話し合いが行われたのは大きな前進と言えましょう。

二〇一三年三月のスナイダーAMASC会長来日の際にはヤンググループのスタディ発表の場も設けられました。「JASHの日」参加をきっかけに、二〇一四年の世界大会への関心をますます高めるべく、委員会としても「心を一つにして」呼びかけを行っていきます。(み49)

## JASH資料委員会

委員長 山本 旬子

JASH資料委員会は、聖心会創立者聖マгдаレナ・ソフィア・バラの精神を継承していくため、一九九〇年より、有形・無形の歴史的资料を収集・保管しています。

本年は小林聖心女子学院が創立九十周年、札幌聖心女子学院が五十周年を迎え、国内聖心各校でもアーカイブスが重要性を増しています。

昨年、今後の委員会の根幹をなすデータベースのフォームが完成しました。順次入力作業となります。多数のお問い合わせを受けて、冊子「語り継ぐこと」第一集、第二集を増刷しました。第一集は、スナイキオの聞き取りで、英文と対訳になっています。第二集は昨年逝去されたシスター竹井のインタビューと戦時中の学校生活が中心の内容です。また二〇一三年三月の「JASHの日」にはスナイダーAMASC会長来日の歓迎行事の一つとして宮代ホールロビーにて展示をしました。

資料委員会では、将来に残すべき大切な資料のご寄付をお願いしています。特に、シスター方との書簡、小林制服、学習ノート、語学資料(すべての年代)、お札等を探しています。重なる場合お断りすることもありますが、まずはJASHウェブサイトでより資料委員会にお声をおかけください。ご相談の上、大切に保存させていただきます。(真4)

## JASHスタディグループ

委員長 山岡 靖子

AMASC会長の呼びかけに応えスタディグループは二〇一一年十月に第一回ミーティングを開いた後、偶数月の第四火曜日に集まり、勉強会を重ねています。テーマは「心をひとつにして耳を傾けよう」。八つの同窓会から集まった四十余名の参加者はサブテーマに従って三グループにわかれ、読書会を中心に感想や体験を述べ合い、テーマについて考えました。

昨年はシスター増田による「神祭り」と信仰心」とシスター寺田による「ケニア・ウガンダの経験を分かち合う」という二回の講話を開きました。お二人の興味深いお話から沢山のヒントをいただきました。(詳細はJASHウェブサイトに掲載)

本年三月のJASHの日にはスナイダー会長をお迎えして勉強会の中間発表を行いました。当日はヤングアラムネも参加し、各グループのリーダー、書記、そしてメンバーの協力のもと映像を使った質の高い報告がなされました。

今後は二〇一四年の世界大会に向けて最終報告書の作成、開催地の下調べ、クリスマス会などを予定しています。今年度の活動も折に触れてウェブサイトで伝えたいと思います。(小み38・宮20)

# 同窓会報告

茂仁香会

会長 千徳 雅子

二年目の二〇一二年を無事終えることが出来ました。役員・会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

今年、札幌聖心は、創立五十周年を迎えます。記念行事に先駆け、昨年一二月二十日にキタラ大ホールでクリスマスコンサートを行いました。私の初めてのクリスマスコンサートから四六年の歳月が流れ、歌もオケの演奏も素晴らしく感動でした。卒業生の演奏・独唱なども、現役で活躍されているお姿に感銘致しました。

札幌の宮の森の何もない丘に、小さな学校が建ち今五十周年を迎えます。私たち同窓生は、そこで受けた教育をもとに愛・知識・教養・友情を身につけました。同窓会活動の目的は、会員相互の親睦と向上をはかり、母校の発展に寄与しあわせて社会に貢献することを目的としています。ご協力をお願いします。

昨年は、札幌聖心に長く深くご指導いただきましたシスター竹井が七月にシスター三上が九月にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。(茂4・宮26)

真理茂会

会長 山屋 俊恵

ゆっくりとした歩みで活動を再開しました真理茂会ですが、本年度は、二〇一一年の総会の際に宣言しました通り、九月の札幌での友愛セールに参加することができました。この数年間、東京支部の活動にのみ生かされてきた真理茂会ですが、茂仁香会、宮代会札幌支部の皆様を始め、札幌聖心における各会の皆様の暖かい励ましと沢山のサポートをいただき、やっと札幌本部として、再びの一步を踏み出すことが出来ました。

東京支部では九月の宮代祭に際し、商品をお集まりが、集まり手作りしました。こちらも、真理茂会のさらなる新しい息吹です。

時期が前後しますが、七月七日には、父の会主催の寄宿生のための『七タイイベント』に真理茂会としてお手伝い参加をさせていただきました。そのイベントにいらしたシスター竹井が真理茂会の参加を大変喜んで下さいました。「真理茂会をなくしてはならない。貴女達卒業生の戻れる場所だから。」と陰に日向に支えてくださったシスター竹井がもういらっしやらないことが本当に寂しいです。二〇一三年も、友愛セールに参加いたします。どうぞ皆様お越しください。(真21)

みこころ会

会長 小糸 順子

昨年十一月に校長様より、聖心教育ネットワークがフェイスブックに公式ページを開いたとお知らせを受け取りました。同じ頃、常任幹事の選出に若い回生はフェイスブックを活用したとの報告を受け、次第に浸透しつつあるコンピューターネットワークに驚きを感じるこの頃です。みこころ会は二〇一五年春に100回生を迎えます。脈々と受け継がれる伝統の良い面は残しつつ、時代の流れに添うように、同窓会の組織や仕事も変えて行かなければならない中、若い世代とアナログ派の熟年世代会員の両方を満足させるのは至難の業とも感じております。

そのような状況の中、本年度も十八歳から七十歳までの幅広い年代の常任幹事やクラス幹事の協力により、行事が粛々と執り行われました。五月に総会及び親睦会、六月に裾野募参、九月には宮代祭参加と社会福祉部主催のコンサート、そして会報を発送、十月はみこころ祭参加と総クラス幹事会、十一月は追悼ミサで祈りを捧げ、年明けの二月には新入会員歓迎会を催しました。三月のJASDの日に向けては、初めての紹介ビデオをアナログ派の熟年世代と若いコンピューター世代のコラボレーションのもと、どうにかまとめ上げる事が出来ました。(み50・宮19)

三光会

会長 堀 容子

本年度より平泉由香前会長のあとを引き継ぎ会長をさせて頂くこととなりました。新たな役員一同、三光会の会員であることを改めて自覚し活動して参りたいと思います。

三光会の主な活動は、年次総会(四月)、ニュースレターの発行(五月)、三光会主催によるチャリティーバザー(六月)、宮代祭、みこころ祭への参加(九、十月)、専門学校主催慰霊ミサへの参加(十一月)、保育科発表会見学、三光会新入会員入会のお誘い(三月)などに加え、その他の福祉活動を行っております。

専門学校は在学期間が二年間と短い上、なかなか集まる機会が少なく連絡の取れない会員も多いようです。私の学年も卒業から三十年を迎え、今一度母校の恵まれた環境で学ばせて頂いた事を感謝し、微力ではございますが、より多くの会員の皆様と同窓会の活動を身近に感じて頂けますように、努力して参りたいです。

一昨年の東日本大震災以来、今まで当たり前と想っていた家族や友人との関係を今一度考え直す機会が増えました。世界中に広がる聖心同窓会の一員であるという幸せを同窓生の皆さまと共有し、絆を強め、多方面で活躍されている会員をひとりでも多く繋げることができそうです。皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。(み66・三英36)

語学校・ISSHアルムネ

会長 木暮ナタリー・  
ベルムデス久仁美アンドレア

二〇一二年一月、聖心インターナショナルスクール幼稚園及び小学校の新校舎が開設されました。同窓生より贈らせて頂きました「聖マダレナ・ソフィア・バラ像」の贈呈式と共に幕を開けました私どもとの連携と一体感を感じる一年となりました。子供たちと一緒に御像の周りにベンチやお花を植える計画や、亡くなられた同窓生方を偲ぶメモリーガーデン設置の許可を頂くなど、校長先生をはじめ、先生方には一年を通して様々な形でご協力を頂きました。現役の学生たちが「語学校・ISSHアルムネ」の活動に興味を持ち、こうして参加してもらえらることに、世代を超えた繋がりを感ず、今後もこの様な機会を作って参りたいと思えます。二〇一三年は、色々な計画を実行に移す年となることを強く願っております。又、聖心同窓会の皆様には、各バザーにて新しいグッズを販売させて頂いた頂きましたことを心より感謝申し上げます。十一月にはインターナショナルスクール聖堂にて「語学校・ISSH追悼ミサ」が開催され、今年も大勢の方々にご参列頂きました。ファミリーフェスティバルは、今年も四月に開催予定です。アルムネブラスにて皆様をお待ちしております。

(I'96・93)

宮代会

会長 傍士 朋子

二〇一二年四月より村上直子前会長より職務を引き継ぎ、皆様の温かいお導きをいただきながら同窓会活動がスムーズに行えるよう心を配っております。

昨年度宮代会は、聖心女子大学震災復興チャリティデーに協賛・参加、宮代祭、ご追悼ミサ、そして総会という大きな行事がございましたが、いづれも盛況のうちに終了いたしました。同窓生が親睦を深めながら、奨学金贈呈や留学生昼食会の開催などで母校を支援し、年末援助金給付や福祉ボランティアなどを通して社会の一員として貢献する宮代会の活動すべてが会員の分かち合いのもと、成り立っております。宮代会館ではJASH同窓生へのお部屋の貸し出しをいたしております。お稽古、勉強会やクラス会などにご利用いただくことができますので事務室までお問い合わせくださいませ。文具や小物などの聖心グッズの開発などショップスタッフも張り切っております。大学聖堂での結婚式のご予約も随時受けておりますのでどうぞご利用くださいませ。今年度は九月十四日(土)に宮代祭を開催いたします。会員交流のためのいろいろな行事やトピックスを随時ウェブサイトに掲載いたしておりますので、JASH会員の皆様にも是非ご覧いただきたいと願っております。

(下23・宮31)

ドウシエーン会

会長 汐見 久美子

二〇一二年五月総会におきまして会長を拝命し、十五名の役員と共に今年度をスタート致しました。この役員は十九回生から五十回生までの親子程もの年齢差のある集まりで、学業や子育て、仕事、介護など異なる忙しい事情を持っており、また静岡県在住者と、東京近郊の者がちょうど半数ずつの為、なかなか集まりにくいのですが、色々工夫して其々の力を最大限に発揮しております。

これまでの活動としては、幹事会(九月)、宮代祭参加(九月)、会報発行(十月)、秋のつどい(十一月)、追悼ミサ(十一月)がありました。その他、新入会員入会式(二月)、『JASHの日』参加(三月)、総会(五月)を予定しております。

幹事会は、全回生の代表が集まり、縦の繋がりを強くする貴重な機会です。この交流が「秋のつどい」に向けてのパワーとなります。その「秋のつどい」におきましては、不二の写真入りのオリジナルマグカップや、不二農園で収穫された新茶を使っての贅沢なお茶館などの販売も行いました。

私どもは、保護聖人である聖フィリピン・ドウシエーンを想い、小さな一粒の麦でも集まって大きな実りとなり、母校や社会に貢献できることを願っております。(下19)

小林みこころ会

会長 松村 美保子

早くも退任の御挨拶を申し上げるときがまいりました。本年度は、恒例の新入生歓迎会、春とクリスマスバザー、総会、追悼ミサ、会報発行の他、四年に一度の名簿発行の年にあたり、電書化が進む中、活字本での名簿は最後になるかもしれないと、役員一同心して製作に励みました。

学院は百周年に向け、アーカイブを設立。なつかしい品々が多数展示されています。同窓会は、聖マダレナ・ソフィアの絵画修復とグリーンクラブの衣装寄贈をいたしました。

七月には、小林の卒業生にとつて心の支えであり続けたシスター竹井とシスター三好の御帰天という大きな試練がございました。シスター方はカトリック女子教育界に新風を吹き込み、力強い改革を成し遂げてくださいました。今の私共の活躍も、お二人の教育の賜と存じます。時代の流れに沿った教育でした。

会長就任以来私は、チェンジをキーワードに改革を、と申し上げてきました。しかし二年の任期はあまりに短く、焦燥感だけを味わったようにも思います。が、改革の最初の一步を踏み出した勇気を今期の功績とし、同窓会離れが顕著な若い世代のニーズに応えられる会に育ってほしいと願ひ、次期役員にバトンタッチさせていただきます。(小み43)

## AMASC会長来日歓迎行事報告

二〇一三年三月十九日から二十一日、AMASC会長パメラ・スナイダー（アメリカ）と、オーストラリア聖心同窓会（ASCA）会長でAMASC役員でもあるアン・ド・ブローリオを迎えて、「JASHの日」を中心とした歓迎行事を行いました。パメラは、幼少期を日本で過ごし一九八六年のAMASC東京大会がAMASC活動の原点と言う大の親戚の家です。一方のアンは初来日。ふたりとも、今回の来日を大変楽しみにしていました。

三月十九日、国内七校の代表としての聖心女子学院訪問。まず、一連の行事が実り多いものとなるよう、聖堂でのオルガン演奏とアベマリア独唱を軸とした「祈りの集い」を行いました。その後、JASH理事会の間に、生徒たちが企画した学校案内と懇談会がありました。音楽演奏や学校生活紹介など充実したプログラムで、将来のJASHやAMASCを担う若者の見事なパフォーマンスに、ふたりは大いに感銘を受けていました。春休み中にもかかわらず立派に大役を果たしてくれた初等科から高等科三年までの生徒たち、それを支えてくださった校長様、先生方に心から感謝しております。

短時間ではありましたが、ふたりはJASH理事会を見学、整然とした会議の様子に驚いた様子でした。その後、懐かしいシスター方、先生、

生徒たちも招いて昼食会を行いました。みこころ会館で茶事のあとは、ビジネスミーティングです。世界でも稀な統合同窓会であるAMASCの重要性という共通認識を持ちながら、運営上の見解を異にするJASHとAMASC執行部が、じっくりと互いの意見に耳を傾けました。スナイダー会長が、苦勞しながら、難しい問題に一つずつ取り組もうとしていることがわかりました。

翌二十日は、初めて国民の祝日に行った「JASHの日」。出席者は二百名を越えました。シスター方、在日AMASC会員の他、折よく来日中のJASH会員であるフィリピン聖心同窓会会長も迎えました。内容も、第一部を総会、第二部をスタディグループ中間発表会として、規模を拡大しました。JASH名誉会長シスター長野の開会宣言に始まった総会では、JASH会長の挨拶と役員紹介、スナイダー会長の挨拶（九ページ参照）、書記によるJASH紹介プレゼンテーションに続いて、委員会、同窓会が工夫を凝らした活動報告を行い、それぞれの雰囲気がよく伝わりました。午後の部はスタディグループの中間発表会。「心を一つにして耳を傾けよう」のテーマについてスナイダー会長がスピーチ（JASHウェブサイトに全文掲載）を、ド・ブローリオAMASC会長がASCA大会の報告を行いました。ヤングアラムネグループを含む四つのグループが中間報告がありました。四グループともに内容の濃い発表で、熱心な

勉強ぶりがうかがわれ、今後の成果が期待されます。

今回は一日を通して海外からの来賓のために、日英の字幕をスクリーンに映写する初の試みをしました。大変難しい仕事でしたが、お蔭さまで喜んでいただきました。

また例年のパーラーから広い学生食堂に場所を移した昼食会も、ホスピタリティー委員会が東奔西走して準備した美しい食卓と美味しい料理が、楽しいひとときを演出しました。日頃それぞれに多忙な会員が、聖心で学んだホスピタリティーの精神を、あらゆる場面で発揮した「JASHの日」は無事に終了しました。

二十一日には、皇后陛下ご臨席のもと、歓迎レセプションが和やかに行われました。峰岸一水の一弦琴の音色が、深く心に響きました。これら公式行事の他、パメラは日本での母校サンモルインターナショナルスクール訪問や、大学時代に寝食を共にした三光会会員との四十年ぶりの再会も果たし、充実した数日間を過ごしました。二十四日、ふたりは日本を離れました。

JASH執行部は七人の小さな組織です。「JASHの日」は、理事会メンバー、委員会委員、同窓会会員、ボランティアの力、シスター方の支え、そして会員皆さまの出席の下、初めて開催することができました。今後、心を一つにして、統合同窓会としての務めを果たしていきたいと思いを新たに数日間でした。

### 古切手を集めています！

AMASCでは各国の同窓生から古切手を集め、スペインの古切手市場ボルサデサロで換金して、貴重な財源としています。国内通常切手や外国の切手の周囲を5ミリほど残して、JASH事務室までお送りください。

### 資料委員会の刊行物

年表「日本聖心女子学院の歩み」  
2008年改訂版 発行  
1冊1,500円

「語りつくこと」第1集、第2集とも増刷、頒布  
1冊700円（郵送の場合は1冊1,000円）

お申込み・お問い合わせは  
FAX、JASHウェブサイト

日本聖心同窓会JASH資料委員会まで  
（官代会館への電話でのお問い合わせはご遠慮ください）

## AMASC会長来日メッセージ Pamela Snyder



Greetings to you all: Religious Sisters, JASH Officers, and Members of JASH,

Thank you for inviting me to your annual JASH Day celebration. Today is the 27th anniversary of the last time I was with JASH. Yes, I was one of the lucky people who took part in the AMASC Congress which JASH hosted in 1986. I have clear memories of that Congress which made strong and lasting impressions. It is not uncommon to remember a big event... all of us remember Conferences and important days such as graduations. My question to you is: do the memories we take away from important days affect our thinking?

I particularly loved the Ikebana class given by a woman of the Ohara School, and the cherry blossoms which were just beginning to open at the Imperial Palace Gardens, where we were hosted by the then Crown Princess. You may be thinking that my strongest memories are of the honorable traditions of viewing of cherry blossoms and Ikebana.... But that is not correct. Today I know that what affected me the most was the 1986 Congress theme: intergenerational and intercultural dialogue. That theme changed me...once I understood my part, my role.

Working on the study plan before the Congress and then listening to the speakers in Tokyo on the theme of intergenerational and intercultural dialogue awakened me. I learned that I had a role to play in dialogue. Dialogue was not only for diplomats at the United Nations, dialogue was important for every aspect of my life. Over the next years I became alert to and aware of issues, problems and with them, possible solutions by means of dialogue.

How strongly do I believe in the value of intercultural dialogue? I believe that continuing the process of intercultural dialogue is so important that it caused me to say yes to serving AMASC as President today.

Is AMASC important? Yes, yes, a thousand times yes. AMASC is important because our constituent members, your JASH and my United States AASH, talk together and study together and have fun together at AMASC Congresses. Therefore JASH and AASH contribute to the long process of achieving world peace by remaining in dialogue.

Think of it, you and I are here today because of one woman's words: St. Madeleine Sophie who said she would have founded the Society... for just one of us... one of us...you, or you or me. Sophie's foundation of the Society of the Sacred Heart enables us all to be together today. Sophie began the dialogue and you and I continue it.

Dialogue is a process with rules and wisdom: we are learners. Dialogue takes more than good will, it demands study. And now is where another quotation of St. M. Sophie's helps me. "God does not ask of us the perfection of tomorrow or even of tonight, but only of the present moment." If I believe that... then I will remain in dialogue with you and with others. Because I believe that the perfection of "this moment" is all that is required of me, doing my best right now, then I will keep working for AMASC as I look forward to welcoming you to Arizona in the fall of 2014, where we will work on listening to one another... another step in dialogue. Listening with one heart, the theme of my mandate... all began in Japan.

### 第15回AMASC世界大会開催地変更のお知らせ

#### 2014年秋 アメリカ合衆国アリゾナ州フェニックス

2014年9月にカナダのモントリオールで開催を予定していた第15回AMASC世界大会の開催地及び日程が、変更になりました。開催地は、現AMASC会長の在住地、アリゾナ州フェニックス。温暖な気候、雄大な自然、ネイティブアメリカンの遺跡など観光名所が多く、ゴルフリゾートとしても知られています。日程など詳細は、決定次第、JASHウェブサイトに掲載いたします。



International School of the Sacred Heart  
www.iss-h.ac.jp



日本国内の聖心姉妹校で、  
フェイスブックページを  
立ち上げました。  
学校法人 聖心女子学院  
姉妹校 教育ネットワーク  
公式 Facebook ページ

Sacred Heart Seven Sister Schools  
https://www.facebook.com/SeishinNetwork

「共生」「姉妹校連携」「東日本大震災」「児童・生徒・学生募集」をキーワードとして発信してまいります。

## 聖心女子大学

Be independent.  
Be intelligent.  
Be cooperative.



英語 英文学 専攻  
日本語 日本文学 専攻  
史学 専攻  
人間関係 専攻  
国際交流 専攻  
哲学 専攻  
教育学 専攻  
初等教育学 専攻  
心理学 専攻

大学院  
修士課程 / 博士前期課程  
博士後期課程

<http://www.u-sacred-heart.ac.jp>

### 2013年度から札幌聖心は新しい一歩を踏み出しました！

“Think globally. Act locally(世界的な視野で考え、地に足をつけて行動する)”を合言葉に、国際社会と地域社会に貢献する女性の育成を目指して、中学1年生からソフィア・サイエンスクラスとグローバルクラスの2クラスを新設しました。

文部科学省：「国際バカロレア教育」推進指定校

● **ソフィア・サイエンスクラス** (定員 40名)

3つのサイエンス(自然科学・人文科学・社会科学)の領域をバランスよく学び、国公立大、医療・看護系への進路実現。

● **グローバルクラス** (定員 20名)

英語コミュニケーション能力と豊かな国際感覚を身につけ、国際社会と地域社会に貢献できる女性を育成

家庭的で安心!寄宿舎見学においでください。

札幌聖心女子学院中学校・高等学校  
〒064-8540  
札幌市中央区宮の森2条16丁目10-1  
TEL011-611-9231  
FAX011-612-0980



### 不二聖心女子学院 中学・高等学校・寄宿舎

2,013年度  
学校説明会

6月29日(土)・9月21日(土)・11月23日(土)

公開行事

11月3日(祝)秋のつどい・12月17日(火)クリスマスキャロル



学院に足をお運びいただき、「不二聖心らしさ」を感じて頂きましたら嬉しく存じます。

静岡県裾野市桃園198

TEL 055-992-0213

<http://www.fujiseishin-jh.ed.jpz>

### 聖心女子学院 学校説明会・入学試験日程等

・姉妹校同学校説明会 5月18日(土)

(於：聖心女子大学宮代ホール)

◇初等科1年生

・学校説明会 6月29日(土)、9月7日(土)

・授業公開 6月25日(火) [要予約]

・新1年生入学試験 11月1日(金)

◇初等科5年生 転入・編入

・学校説明会 6月29日(土)、11月9日(土)

・運動会 5月25日(土) [要予約]

・授業公開 6月25日(火) [要予約]

・新5年生転入・編入学試験 2014年1月18日(土)

◇中等科帰国生入試

・入学試験 12月21日(土)

詳細は、2013年4月以降本校公式HPをご確認ください。

〒108-0072 東京都港区白金4-11-1 TEL:03-3444-7671

<http://www.tky-sacred-heart.ed.jp>

## 心を磨く 一貫教育



豊かな知性と信仰に根差した  
行動力のある女性の育成につとめています。

学校法人 聖心女子学院



小林聖心女子学院

小学校・中学校・高等学校

## 聖心女子専門学校

人間教育を大切にしながら  
社会貢献のできる人材育成を  
めざしています

**英語科**

徹底した基礎英語教育を中心に、必修海外研修、TOEIC、TOEFL、パソコン教育、英文会計など、実社会で役に立つ力を身につけます。

**保育科**

二年間で幼稚園教諭二種免許、保育士資格同時取得可。  
実践的講座を重視した教育課程を編成・人間性の豊かさを大切に  
こどもの心のわかる人材を育成します。



◆両科共に大学、短大の既卒者、社会人経験者多数在学中  
英語科では、もう一度英語力に磨きをかけたい方のために  
公開講座も開講しています。詳しくはお問い合わせください。

〒108-0072 東京都港区白金4-11-1

TEL 03-3442-8649

URL <http://www.sen-sacred-heart.ac.jp>

# 2012年度JASHの1年

**1. 役員会** 定例役員会 毎月 第2火曜日 全11回  
臨時役員会 随時開催

**2. 理事会** 隔月 第3火曜日 全6回



2012年度JASH理事会メンバー

**3. 会長、副会長の各同窓会総会等出席 (7回)**

## 4. JASHスタディグループ

第3回ミーティング(4月24日)  
第4回ミーティング(6月26日)  
第5回ミーティング(10月23日)  
第6回ミーティング(2013年2月26日)  
シスター増田講話会(9月25日)  
シスター寺田講話会(10月23日)

## 5. プレゼンテーション

宮代祭(9月8日)  
みこころ会新入会員歓迎会(2013年2月14日)

## 6. 登録ボランティアの活動

AMASC会長来日歓迎チーム(6月～2013年3月)  
古切手処理(随時)  
翻訳ボランティア(進行中)  
JASHの日準備・当日進行・後片付け(2013年3月18～20日)

## 7. JASH主催行事

第3回JASH-AMASCを考える会(11月27日)  
AMASC会長来日行事「JASHの集い」(2013年 3月19日)  
(於 聖心女子学院)  
第27回「JASHの日」(3月20日)  
(於 聖心女子大学)

2012・2013年度役員

会長	堀田 公子	
副会長	崎川由美子	松原美智子
書記	岡村 香	唐澤 明子
会計	兼元とし子	中山 宏子

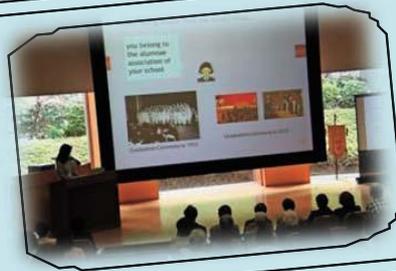
発行日	2013年3月31日
発行所	日本聖心同窓会(JASH)
住所	東京都渋谷区広尾4-3-1 聖心女子大学 JASH事務室
TEL&FAX	03-3407-0671
発行人	堀田公子
編集	JASH役員
協力	吉川富久子
印刷	奥村印刷(株)

# AMASC会長来日歓迎行事 (2013年3月19-21日)

聖心女子学院  
訪問



JASHの日



AMASC会長  
歓迎レセプション

